

令和8年度第1回岐阜県先端科学技術体験センター 指定管理評価員会議議事要旨

○日 時：令和8年8月25日（火） 10：25～12：20

○場 所：岐阜県先端科学技術体験センター会議室

○議 題：令和7年度の事業報告について

○出席者：

【評価員】〔定数：4名〕

岡田 優子 （御嵩町立伏見小学校 校長）

国本 里奈 （瑞浪市PTA連合会 瑞浪市立陶小学校 PTA副会長）

佐々木 喜一郎（岐阜協立大学 経営学部 准教授）

三宅 崇 （岐阜大学 教育学部 教授）

【指定管理者】〔トータルメディア中電クラビス科学サービス〕

森岡 武 （(株)トータルメディア開発研究所 PPP・共創事業本部 PPP推進第1部 部長）

森井 映美子（(株)トータルメディア開発研究所 PPP・共創事業本部 PPP推進第1部
チーフディレクター）

池川 綾乃 （(株)トータルメディア開発研究所 PPP・共創事業本部 PPP推進第1部）

五ヶ山 淳 （中電クラビス(株) 展示館サービス部 部長）

水谷 幸次 （中電クラビス(株) 展示館サービス部 副長）

桜井 正之 （岐阜県先端科学技術体験センター 館長）

安江 進 （岐阜県先端科学技術体験センター 副館長兼総務課長）

田代 学 （岐阜県先端科学技術体験センター 教育普及課長）

和田 沙欧里（岐阜県先端科学技術体験センター 利用促進課長）

石田 素子 （岐阜県先端科学技術体験センター 教育普及課長補佐）

【事務局】〔岐阜県観光文化スポーツ部文化伝承課〕

佐橋 誠 （文化伝承課長）

清水 信博 （文化伝承課 教育文化課長補佐）

水野 善晴 （文化伝承課 教育文化係主査）

○議事概要

【質疑応答】

三宅評価員：事業説明資料 P35 の「チャレンジプラス」、「LaQ（ラキュー）」の内容について説明願いたい。

田代 課長：「チャレンジプラス」は、特に年齢層の高い子供向けのプログラム。最近の来館者は低年齢化の傾向にあるが、当館の設立目的に基づき、小学校中学年から高学年の子供に来館いただくため、高学年の子供が満足できるプログラムとして「チャレンジプラス」というプログラムを設けた。これにより、高学年の来館が増えている。

「LaQ（ラキュー）」は、その反対で年齢層の低い子供向けのプログラム。科学館として、単純にブロックを並べて遊ぶだけでなく、プラスチックの性質や構造等説明するなど科学的な要素を持たせ、低年齢層に提供できる新しいプログラムの

1 つとして開発した。

三宅評価員：昨年度2月に行われた「大学生サイエンスフェスティバル」と、今年度7月に行われた「サマーサイエンスフェスティバル」は非常に集客数が多い。なぜこんなに増えたのか。何か工夫や経緯はあるか。

安江副館長：「大学生サイエンスフェスティバル」は、共催の公益財団法人中部科学技術センターに、協賛を多く集めていただき、出展ブース数を大幅に増やすことができた。また、広報では当イベント単体のチラシを配布した。

「サマーサイエンスフェスティバル」も、30ブース以上と多くの出展をしていた。広報では、当イベント単体のチラシにて、各ブースがどのようなコンテンツを提供しているのか明記し、広域に配布した。また、インフルエンサーによるSNSでの影響もあった。

これにより、「大学生サイエンスフェスティバル」の3,600人、「サマーサイエンスフェスティバル」の7,097人とかつてない人数の方に来ていただくことができた。

佐々木評価員：収容人数は問題なかったか。7月には熊本地震もあったが、安全面、防災・危機意識という観点から、今後人数が急激に増えるイベントでの対応策について、どのように考えているか。

安江副館長：当館のキャパシティを超えることもある。課題として駐車場の確保、駐車場の警備員の確保、広報の段階では配布エリアのバランス等がある。

桜井館長：実際のイベント開催時には、時間帯によって入場制限をかけ対策を行った。

佐々木評価員：定量的なデータで言うと当館は高い評価に値すると思う。少子高齢化、AI時代の中で、子供たちが自分の手を使って科学を体験できる点が良い。このような素晴らしい活動をどれだけ続けられるかが大きな課題である。

なお、ファンクラブの活動は3年前からとのことで、他施設で実施している、子供が1つクリアすると次の1つといったような積み重ね、コレクション効果、数字だけでは見えないものを見える化するような学習効果など参考にしてはどうか。

岡田評価員：新しいプログラムを多く開発してみえるが、それを生み出すには時間が必要。開発する部門の方はそれに専念しているのか。施設が閉館してから夜遅くまで仕事をしているの。

田代課長：特に残業はしていない。土日は来館者が多く、接客対応が中心。平日は出張ワークショップ等の学校対応があるが、それ以外の時間で開発を行っている。

桜井館長：特に、夏休み企画等大規模な企画は、開発に1年間近くの時間をかけている。

【講評】

岡田評価員：当館が出来た当初から学校現場として関わってきたが、常に魅力的であり続けるために、日々研鑽に努めてアップデートをしてみえるという点が本当に素晴らしいと思う。特に、「いつでもどこでもサイエンスワールド」ということで、オンライン、SNS、YouTubeなどの工夫により、来館できなくても、家庭でサイエンスを楽しむことができるようにする取組みは、素晴らしいと思う。当館や当館のオンライン等を利用する子供は、家族が連れてきてくれる子供、動画を見る環境が整っている、そもそも興味がある子供。興味がない、触れる機会がない子供に、科学の楽しさを知らせたいと思うと、学校に来ていただくのが1番良いと思う。勤

めている学校では毎年出張ワークショップを活用している。今年は初めて、授業参観日に実施したが、親御さんにも好評だった。

また、科学と日常生活が結びつきについての重要性を教えたいが、なかなか難しい。当館において、動画等を開発していただけると、授業で利用できるのありがたい。

最後に、県へのお願い。当館を利用できるようバス代の補助事業等を是非お願いしたい。バス代が高騰しており、当館まで連れてくることができないのが現状。県事業に「ふるさと魅力体験事業」があるが、サラマンカホールに午後から行くという決まりがあり、当館を利用するのは時間的に難しい。他に、「緑と水の子ども会議」という事業があるが、県の博物館、美濃和紙の里会館等の利用ができる自然関係についての補助金で、当館は対象とはなっていない。

国本評価員：PTAの役員として、保護者目線での意見・感想などを述べる。今回、久しぶりに施設を見て回ったが、華やかになり、多くの人が集まっていることに驚いた。働いている人も年齢層が幅広く、中には高校生のアルバイトがいきいきと活躍している姿が見受けられた。

また、未就学児に対して導入した「LaQ（ラキュー）」は幼稚園でも人気があると聞いており、良いと思う。夏休みや休日に兄弟と一緒に来館した未就学児だけが退屈な時間を過ごすことなく、当館を体験できる。

佐々木評価員：今回、施設を見学し、スタッフの素晴らしい対応や、楽しんで実験をしている姿に感心した。また、来館者の顔を見ていると非常に満足度が高いことが分かる。私にも3歳の子どもがいて、幼稚園になったら絶対つれてこようと思うコンテンツだらけでした。

事前にYouTubeを拝見したが、手作り感や広報に力を入れていることが伝わった。ホームページは、子どもが見てもワクワクできる。また、大人が見ても情報が整理されており、動線がきれいに整備されているなどと思った。

加えて、イベントやコンテンツの中身から、色々な企業、大学等と連携・協力しながら開発されたことが感じられる。このような活動の効果がじゃらの結果（子どもの学びになりそうな科学館・博物館ランキング第9位）にもつながったと思う。また、コストに対する意識も非常に高く驚いた。

三宅評価員：非常に評価できる点がたくさんあるのは、他の評価員が述べたとおりである。以前、来館者の低年齢化が進む中、楽しむだけとなるプログラムについて意見したことがあったが、今回、高学年向けのプログラムを意識して取り組んでいたという点は良いと思う。

また、私自身、岐阜駅周辺で11月に開催される「ぎふサイエンスフェスティバル」にブース出展していたが、当館の立地で「サマーサイエンスフェスティバル」の集客3,000人はすごい。広報がうまくいっており、皆さんに伝わっていると思われる。キャパシティの問題に対応しつつ、是非続けていただきたい。